Ｂ・Ｃグループ

「学び・やり甲斐・ACTIVEプロジェクト」の指導内容を中心とした、

「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の実践例

～～日本語力の向上～～

ろう学校高等部　国語科

1. 課題の内容

日本語の獲得に困難さがあり、語彙力不足、助詞の誤用などがみられる。

1. 課題改善に向けて具体的な取組

・自分の思いや考えを、言葉や文にする機会を多く設定する。

・音声は消えてしまうので、発した言葉や文を書く。書いたら再度、それを声に出して読む。そのどちらも意識して指導する。

・生活年齢に応じた語彙を用いることができるよう、「高校生になるとこういった語句を使う。」と言い換えをさせたり、「死ぬ」を意味する語句「命を落とす」「命を奪われる」「息をひきとる」などを提示して選択させたりする。

・いずれにおいても時間を要するが、継続して取り組むことが必須である。

1. 取組の成果とその要因

・作文や小論文を書くことに、抵抗感を持たずに取り組めるようになった。

・推敲の観点に応じて、文法の誤りなどにも自ら気づけるようになった。

1. 取組の中で感じられた課題と考えられる原因

・聞こえにくい子どもたちは、視覚的、聴覚的な情報を自ら得る意識が不可欠であるが、社会で起きていることへの関心が低いなど、まだまだ情報不足の面がみられる。小論文の題材に対して、根拠や理由を挙げて論じることが難しい。

（５）（４）で感じられた課題に向けての改善策（案）

・新聞記事を活用する。（社会への意識、語彙力の向上、読解、自分の意見を持つ）

・自分の経験を書きためる。（小論文などで意見を述べる際の理由へつなげられる）